2024年度・第2回未来会議（全体会）議事録

鹿ノ台未来まちづくり会議（未来会議）会長　須都　紘
副会長兼書記・広報　伊藤　智子

日時：　2024年5月19（日）13：30～16：10

場所：　いきいきホール大会議室

出席者（順不同、敬称略）：
須都　紘（会長）、黒部　實（副会長）、伊藤　智子（副会長・書記・広報）、
鎌田　卓（事務局長・会計）、平尾　英城、山田　勲、中世古　昭一、黒田　勝行、
山田　修、
欠席：　菊地　雅夫、渡辺　昇、

配布資料：
① 令和6年度第2回（5月）未来会議（全体会＆懇談会）議題（案）
② 鹿ノ台自治会の現状・課題・対応について（たたき台）
③ 第2回鹿ノ台脱炭素まちづくり懇談会　議事録（案）V3
④ 生駒市役所 SDGs 推進課にあてた脱炭素まちづくり懇談会の質問状
⑤ 生駒市コミバス『たけまる号』鹿ノ台線　乗車実績（人数）　R6.4月度
⑥ 生駒市コミバス『たけまる号』鹿ノ台線 利用状況 分析【令和6年4月度】
⑦ 鹿ノ台コミバスニュース No.15「コミバスに乗って満開のユリを観に行こう！」

会長挨拶

―5月の連合役員会において、新任の自治会長さんに対し、未来会議の設立趣旨・活動実績について説明した。9月または10月に未来会議と連合役員会との連絡会を実施する予定にしている。

―脱炭素先行地域推進プロジェクトについて、5月15日に生駒市 SDGs推進課から説明を受けた。鹿ノ台に関わる部分を中心に、後に説明していただく。

鹿ノ台地域・自治会の喫緊の課題と対応について

5月14日、菊地連合会長と未来会議幹事会とで非公式な話し合いを行った。菊地会長から、自治会および各委員会・団体の後継者問題について課題提起があり、フリーディスカッションを行った。この問題については今後、自治連合会の意向を確認した上で、検討を進めるかどうかを決めていきたい。

5月14日の話し合いの概要は次の通りである；

―鹿ノ台の現状をデータに基づいて分析を行い、そうした共通認識に基づいて議論を進めていきたい。人口減少、高齢化、価値観の多様化、共働き・就業期間の延長、独身世帯の増加、80/50問題、老々介護の問題、働き方改革などの現実を踏まえた議論を行っていく。

―そうした現実の下、以下のような問題が起きている（例示）；

・自治会でもボランティア活動の担い手の世代交代が進まず高齢化しているが、自治会・委員会活動は増えており、ボランティアの負担が増えている。

・自治会員と会費収入が減少しつつあり、また、自治会への加入率の低下と関心の低下が起きている。

・老朽化が進む集会所や自治会館の修繕・建替えが必要である。

・公園の管理費は、市からの委託料266万円に対し、支出が392万円（公園維持管理352万＋トイレ清掃40万）であり、自治会の負担が大きい。

―自治会活動を維持・活性化していくためには、活動を優先順位の高いものに絞る、IT 活用で省力化する、外部委託を行う、ボランティアの発掘と育成、自治会員減少に歯止めをかける、会費収入以外の運営資金の確保などを検討する必要がある。

―こうした問題については連合役員会でも話し合いをしてきており、今年も納涼祭が終われば議論を進める予定だという。各自治会でも昨年、仕事の現状点検を行っている。

この問題で連合会から未来会議に対して諮問されるのかどうか決めていただく。諮問される場合は、最優先課題に絞って諮問していただきたい。その場合、連合役員と未来会議のメンバーが参加する新たなチームを立ち上げて検討し、未来会議全体会や連合役員会に適宜報告するという形が良いだろう。目標は定性的・定量的の両方で設定し、目標達成の時間軸も設定し、アクションプランを策定して実行していくという方向になるかと思う。

<u>転入促進に関する意見；</u>

意見： 未来会議発足時から、子育て世代の転入促進のために連合ホームページの刷新や子育て分科会の活動に取り組んできてもらった。もっとその路線を継続・強化すべきではないか。転入された方々にも話を聞き、このまちの良さを訴求する施策を行い、これをホームページでアピールしたら良いのではないか。

意見： 連合ホームページの刷新に未来会議から3人が参加したが、若い2人はご自身の仕事の都合で継続できなくなったため、なかなか進められていない。

意見： 転入促進のために ABC ハウジングに未来会議の広報誌「みらい」を置いてもらっている。今春発行した「みらい3号」では QR コードから詳しい内容が読めるようにしたせいか、ABC ハウジングで持って帰って下さる方が増えている。鹿ノ台でも駅に近い東1丁目や南1丁目は人気がある。「駅が近い」「買い物便利」「治安の良さ」が重視されるポイントだという。

意見： ウェルカムミーティングは、新規の方を対象に半年に1回実施しているが、居住1～2年の方にも参加して頂いて、実感をうかがって参考にしたら良いのではないか。また、不動産事業者に協力してもらい、転入検討者に対して説明会を開催したらどうか。

意見： あすか野幼稚園が今年から鹿ノ台校区の公立幼稚園となったため、あすか野幼稚園のニュースが回覧されるようになった。鹿ノ台の中にある保育園・幼稚園に対しても、広報面で協力をしていくべきではないか。

意見： 納涼祭や春まつりには地域の子どもたちがたくさん参加しており、地域での楽しい思い出の一つになっている。鹿ノ台を巣立った世代にも、戻って来て旧交を温める機会を提供している。地域の大人が、そういうイベントを提供できているのは素晴らしいことだと思う。

財源に関する意見；

意見： 必要な場合にはお金がかかってもプロに任せればいいが、そのためには収入を増やすこと、既存の支出にメスを入れることが不可欠であり、覚悟が必要だ。

意見： 自治会は自主財源を持つべきだと考える。自治連合会が資産を所有し経営することを可能とする法人格の制度ができたので、ハードルは高いが勉強してチャレンジしていきたい。自治会が亡くなった方の遺志による不動産などの寄付を受けられるよう、活用できるようにしたい。

自治会活動の維持、継承問題についての意見；

意見： 自治会活動の低迷については連合会も認識している。活力を維持していくための手段は多様だが、目の前の個別の課題への対応に追われている。評議員になる人が減っているが、ある自治会ではやっている仕事を他の自治会ではやっていなくても問題ないというケースもある。鹿ノ台の全自治会の仕事の棚卸を行い、比較検討し、簡素化していく必要がある。

意見： 連合会では、納涼祭の準備が非常に大変である。納涼祭は肥大化しすぎているのではないかと感じる。連合役員会では、傘下の各委員会6、7団体から説明を受けたところだ。自治会長は半数以上が若い方であり、高齢の方も初めてなられる方がほとんどである。会長さんの熱量がなければ、未来会議や自治連合会で何を話し合っても自治会には伝わらない。

意見：未来会議では、忌憚のない活発な議論をしているが、前向きで建設的な意見交換をさらに進めてほしい。

意見： 未来会議に参加していた若い世代も、ほとんどいなくなってしまった。本業の多忙さや体調不良などが理由だが、声の大きい年長の方に意見を聞いてもらえず、面白くなかったという意見もあった。現役世代は、リタイア世代ほど自治会での実績も実際に動ける時間も少ないので肩身が狭い。また、リタイア世代のような激しい議論は苦手である。そうした世代間ギャップを乗り越える努力を年長者の側も意識していただかないと、活動が継続できないのではないか。

未来会議から連合役員会への要望；

自治連合会として、未来会議に何を求めているのか、意思統一していただき、検討すべき内容も絞り込んで明確化し、正式に諮問していただきたい。また、連合会も一緒になって議論していくべきだと考える。6月の連合役員会において話し合ってほしい。

「鹿ノ台放課後子ども教室にじ」の3年目の活動について

―22年度から実施している「鹿ノ台放課後子ども教室にじ」の今年の活動が6月から始まる。定員は、教室のサイズやスタッフの人数に制限があるため、例年と同じ30名で募集した。今年は58名応募があったため、教頭先生に抽選していただき、31名が確定した。1年生と2年生が3分の2を占めている。

―今春も新たなスタッフ募集（地域ボランティアと学生アルバイト）を行ったが、地域ボランティアの応募はなかった。学生アルバイトには大学生2名の応募があり、高校生も参加を検討してくれている人がいる。今年度はスタッフ人員が不足することはないと思われるが、地域ボランティアを増員していくことが今後の大きな課題である。

―昨年応募して下さったスタッフは5名全員が今年も来てくださることになり、楽しんで活動して下さっている様子なので良かったと感じる。

生駒市脱炭素先行地域推進プロジェクト説明会の報告

―5月15日にいきいきホールで、脱炭素先行地域推進プロジェクトに関する説明会を行った。生駒市のSDGs推進課および福祉政策課、鹿ノ台脱炭素まちづくり懇談会などから総勢12名が参加した。

SDGs推進課の木口課長からの説明：

―この課題に対する市民の関心が低いため、高齢者支援や子育て支援、防災など、市民の関心が高い他分野への参加を通じて、結果的に「知らないうちに」脱炭素になる社会の仕組みづくりをしたい。

―具体的には、「生駒市民パワー（ICP）」と「複合型コミュニティ（まちのえき）」を効果的に組み合わせて実現したい。ICPは地産地消の再生エネルギー供給を行っているが、収益を株主ではなく地域のまちづくりの課題解決に活用していく事業モデルである。「まちのえき」による地域活性のまちづくりでは、人が集まって効率化、省エネ化、無駄の削減を図るが、この場を活用した再エネの普及、ICPの活用を考えていきたい。

―生駒市の脱炭素先行地域では、まず公共・民間施設232施設に太陽光発電を設置する。その他、モデル地区として萩の台とひかりが丘の2自治会で公共・民間施設と個人住宅にソーラーパネルを導入し、2030年までにゼロカーボンを目指す。

鹿ノ台は今後の公募において調整させてもらう。

―今年3月、PPA（電力購入契約）事業の契約当事者となる特別目的会社（SPC）「合同会社いこまサンライフ」を設立した。エネオス・リニューアブル・エナジー（ERE）、カジノン（株）、ICP が300万円ずつ出資した。

―施工事業者が設置したソーラー発電装置は事業者の所有・管理となり、発電された電力を SPC が全量買い取り、ICP に売電する。設置場所提供者は、ソーラー発電の自家消費分は ICP から買い取り、それ以外の消費分は ICP または他の電力会社から購入する。設置場所提供者は、場所使用賃貸契約を SPC と結び、電力需要契約を ICP と結ぶことになる。

―電力以外にも、ICP が主体となり車両の EV 化・急速充電器の設置拡大を行い、収益を地域に還元する方向だ（ただし、収益化は難しいとされている）。また、EV カーシェアリングも他社との連携を通じた実現を検討中である。

<u>質疑で確認された事項；</u>

―生駒市の本事業の予算は R9年度までで27億円となっている。

―ソーラー発電設備が譲渡されるまでの期間は、以前は5年程度としていたが、実際には17～20年になる。

―設置場所提供者の自家消費分の電力料金は賃貸料の代わりとして安く設定されるが、金額は未定。

―いきいきホールに設置予定のソーラー発電設備一式には蓄電池も含まれる予定である。来年3月までの稼働を考えている。

―鹿ノ台小学校には来年4月以降の設置を考えている。ふれあいホールへの設置も計画されている。東西北の集会所は建築耐用年数を考えると設置できない。南集会所は新築なので今後検討する。鹿ノ台中学校のソーラー発電設備に蓄電池を設置することは、既設の施設であるため今回の交付金では難しい。

質問： いきいきホールは市の所有物だが、自治連合会が市から賃貸料（実際はソーラー電力の自家消費分の割引）をもらえるのか。

回答： いきいきホールの改修費の6割は自治会負担であり、内部の設備にも自治会の資金が投入されているため、自治連合会が設備提供者であり、契約主体と認識されている。

意見： 電池の寿命は10年、パワコンは5～15年である。設備の譲渡が17年後だとすると、それら付帯設備の交換頻度などにもよるが、かなり古い設備を譲渡される可能性がある。自家消費分の電力の料金がどの程度割り引かれるかにもよるが、設備の修繕・交換・廃棄のコストも考慮し、損益分岐点をシビアに算出してから契約するかを決定する必要がある。

意見： 未だに自家消費分の割引料金も決まっておらず、譲渡期日も17～20年後と確定していない。にもかかわらず、8月には事業着手して、来年3月までに稼

働させるというスケジュールは現実的ではない。この契約を締結するかどうかは、契約内容が確定した後、各自治会にその内容を説明したうえで決議していただく必要がある。そうした手続きに相当の時間がかかることを市に理解していただかねばならない。

意見： いきいきホールは築40年であり、建物の今後の耐用年数から考えると、あと何年使えるのか、という問題もある。屋上の防水工事も15年ごとにやり直す必要がある。そうしたことも考慮していかねばならない。

意見： 第二回懇談会の議事録、市への質問及び回答、市作成の資料は、連合会の会長・副会長に送信した。要望があれば懇談会が対応をすることになる。

鹿ノ台コミバス月度乗車実績について（報告）

4月度の乗車実績；

―4月の運行日数は12日、乗車人数は月間で672名、1日あたり56名だった利用者の増減は天候と密接に関係しており、4月の利用者数は、晴れの日は1日あたり62.1人、雨の日は同37.0人だった。

―4月から運賃が200円となり、1名あたり10円の自治連合会による運賃差額負担は廃止された。4月度の収入比率は30．35％で、生駒市の基準をクリアしている。1人当たりの運賃単価は、子ども料金が100円であることもあり、一人当たり164円と少なかった。

―昨年8月から今年4月までの累計では、運行日数105日、乗車人数は累計で5358人、1日あたり平均51．0人で、これは前年同期比で12％の増加である。この期間の累計の収入比率は32．16％で生駒市の基準を上回った。

―4月1日から7月31日まで、「いそかわ」のご協力を得て利用促進のためのキャンペーンを行っている。その効果が出ており、4月度のいきいきホール前での乗降人数は1日あたり17．3人で、それ以前の3か月平均よりも6．9人増加している。これは66％の増加に相当する。

―「コミバスに乗って満開のユリを観に行こう」というイベントを行う（6月12日・14日）。指定のコミバス便で鹿ノ台オープンガーデンに行き、ユリを鑑賞し、いきいきホールに戻ってサロンで無料のコーヒーでご歓談いただくというプランである。是非ご参加いただきたい。

次回

日時： 2024年6月16日（日） 13:30～16:30
第I部 全体会 13:30～15:10
第II部 分科会 15:15～16:30

幹事は13：15集合

場所：　いきいきホール　　以上